



30・10運動？

忘年会、年が明ければ新年会の季節になりました。

令和に入って初めての忘年会・新年会なので、懐具合は別としても盛り上がるのではないのでしょうか。

ところで職業柄、日頃から様々な懇親会に出席する機会が多いのですが、その度に思うのは、「こんなに美味しい料理を残して、もったいないな」ということです。

人一倍食欲旺盛な私も、ついつい食べ残してしまうことが多いのです。

ある全国会議が終わって、大勢の出席者が集う懇親会の席上で、西日本から出席された方が、「せっかく秋田の美味しい料理を口にできると思ったけど、席で落ち着いて食べる雰囲気ではなく、秋田の懇親会はいつもこうですか？」と言われたことがあります。

確かに、他県での全国会議終了後の懇親会などでは、自席を立てて他のテーブルをお酌をして廻る人の数は少なく、それぞれ自分のテーブルの皆さんと談笑しながら、酒食を楽しんでいることが多いように感じられます。

また、東京の一流ホテルでの結婚披露宴では、新郎新婦以外のテーブル席の方へののお酒注ぎはテーブルマナー上非礼なことで遠慮して下さいということでした。

特に本県では、懇親会での乾杯が済むやいなや直ちにビール瓶やとっくりを持って他のテーブルにお酒を注ぎに歩く姿が目につき、主賓の席には一杯お注ぎしたいと列をなすことが一般的になっています。

確かに敬意を表すために、主賓にお酒を注ぎに行くという気持ちは分かりますが、主賓の方々も次から次へのご自身の酒の好みに拘わらず注がれるのは本心では望んでおらず、ゆっくり美味しい料理を口にしながら好みのお酒を飲みたいというのが本音のようです。

また、乾杯直後に席を立つ人が多くなるということは料理を口に作る時間が少なくなり、結果として大量の食べ残しが出るということです。

食べ物を粗末にし環境にいらぬ負荷をかけるということにもなり、決してスマートなことではありません。

ということで、「3010（さんまるいちまる）運動」とは、懇親会が始まったら、最初の30分と終わりの10分はご自分の席で料理を楽しんで下さいという運動です。

ところで、宴会場ではステーキなどメイン料理が終わり頃に出て来ることが多く、食べる間がない時が間々ありますが、美味しいものは早めに出してもらえないのでしょうか？